

■当月のS&P MLP 指数の動き

4月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比▲1.0%と4か月ぶりに下落しました。

米中通商協議の進展期待に加え、米中の経済指標の改善などを受けて投資家心理が好転し、原油価格および米国株式市場が上昇する中、S&P MLP 指数は5日に年初来高値を付けました。しかしながら、その後は、個別材料に乏しい中、一部MLPが市場予想を下回る決算発表をしたことや、下旬にかけて原油価格が弱含んだことなどを受けて下落基調となりました。

■過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



■主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/4/30	2019/3/31	2019/1/31	2018/12/31	前月末比	3か月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	4,758.77	4,806.30	4,579.99	4,047.51	-1.0%	3.9%	17.6%
ブライ斯拉ターン	1,450.92	1,476.25	1,423.04	1,268.20	-1.7%	2.0%	14.4%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	5,893.81	5,664.46	5,383.63	4,984.22	4.0%	9.5%	18.2%
ブライ斯拉ターン	2,945.83	2,834.40	2,704.10	2,506.85	3.9%	8.9%	17.5%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	882.13	881.52	841.26	757.14	0.1%	4.9%	16.5%
ブライ斯拉ターン	489.38	489.45	470.81	424.07	-0.0%	3.9%	15.4%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,373.90	1,378.11	1,330.35	1,190.35	-0.3%	3.3%	15.4%
ブライ斯拉ターン	329.29	330.80	322.06	288.67	-0.5%	2.2%	14.1%
米国ハイイールド債(ICE BofAメリルリンチ・米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,343.45	1,324.91	1,290.27	1,233.61	1.4%	4.1%	8.9%
ブライ斯拉ターン	76.51	75.84	74.65	71.75	0.9%	2.5%	6.6%
米国10年国債利回り	2.50%	2.40%	2.63%	2.68%	0.10	-0.13	-0.18
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり	63.91	60.14	53.79	45.41	6.3%	18.8%	40.7%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	2.58	2.66	2.81	2.94	-3.3%	-8.5%	-12.4%
米ドル(対円)	111.42	110.86	108.89	109.69	0.5%	2.3%	1.6%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■ 当月の出来事いろいろ

- S&P MLP 指数の時価総額上位構成銘柄である「エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ」、「マゼラン・ミッドストリーム・パートナーズ」、「プレーンズ・オール・アメリカン・パイプライン」などが、2019年1-3月期の分配金について前期比増配を相次いで発表した。一方、上位銘柄ではないながらも、売上高、利益ともに市場予想を下回る決算を発表し、分配金についても50%の引き下げを発表したMLPがあり、地合いを悪くする要因となった。
- 12日、米石油メジャーの「シェブロン」が、独立系石油大手「アナダルコ・ペトロリアム」を買収すると発表。これを好感し、「アナダルコ・ペトロリアム」が55%の株式を保有するMLPであり、S&P MLP指数の時価総額上位構成銘柄である「ウエスタン・ミッドストリーム・パートナーズ」が大きく上昇し、指数の値上がりにも貢献。なお、24日、米石油大手の「オキシデンタル・ペトロリアム」は「アナダルコ・ペトロリアム」に対し、「シェブロン」を上回る金額の買収案を公に提示した。
- 22日、米政府は、昨年11月に再発動したイラン産原油禁輸措置に関し、これまで日本を含む8カ国・地域に認めてきた適用除外を5月2日で打ち切る方針を明らかにした。これを受け、原油供給への警戒感などから、原油価格が一段と上昇し、WTI原油先物価格は23日に、昨年末比で約46%上昇した水準となる1バレル＝66.3米ドルを付けた。しかしながら、その後、米週間統計において米原油在庫が予想以上に増加したことや、トランプ大統領がOPEC(石油輸出国機構)に電話し、原油価格の引き下げを求めたことなどから、月末にかけて原油価格は下落基調となった。

■ 今後の注目点

- 目先は、MLPの決算発表内容が注目される。
- OPEC加盟・非加盟国が、6月の会合において、協調減産延長の決定を行なうかどうか注目される。

■ MLPの分配金動向

決算シーズンの際、MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。4月から公表が始まっているMLPの2019年1-3月期の分配金動向は、2019年5月7日現在で、指数構成銘柄(42銘柄、2019年3月末時点)のうち、**39社の発表が終了しており、前期比での増配は19社、横ばいが17社、減配が3社**となっています。

<S&P MLP 指数の上位構成銘柄*と分配金額の動向>

2019年5月7日現在

*上位構成銘柄は、2019年3月末時点

	銘柄名	業種 (事業分類)	2018年10-12月期		2019年1-3月期	
			分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前年比)	分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前年比)
1	エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ	石油・ガス 貯蔵・輸送 (川中)	0.6%	2.4%	0.6%	2.3%
2	エナジー・トランスファー		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3	マゼラン・ミッドストリーム・パートナーズ		2.0%	8.4%	0.8%	7.2%
4	プレーンズ・オール・アメリカン・パイプライン		0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
5	MPLX		1.6%	6.6%	1.5%	6.5%
6	ウエスタン・ミッドストリーム・パートナーズ		1.3%	9.8%	1.2%	7.3%
7	エンリンク・ミッドストリーム		1.5%	6.2%	1.5%	6.1%
8	バックアイ・パートナーズ		0.0%	-40.6%	未発表	
9	プレーンズGPホールディングス		0.0%	0.0%	20.0%	20.0%
10	トールグラス・エナジーGP		2.0%	41.5%	1.9%	8.7%

※業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づく、事業分類は、日興アセットマネジメントによるもの

※2019年1-3月期の分配伸び率は、2019年5月7日時点で確認できたもの

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

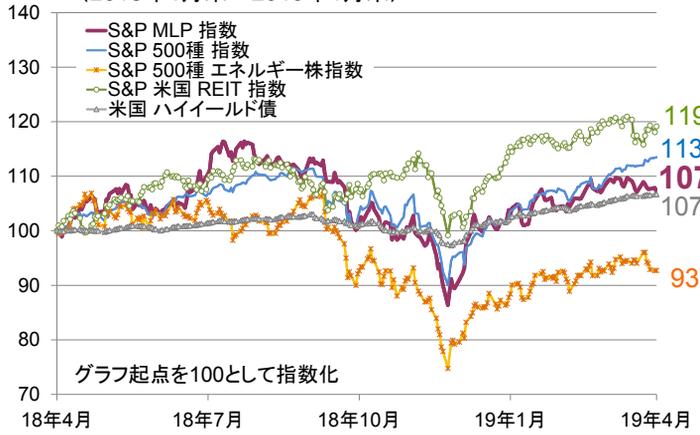
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

日興アセットマネジメント

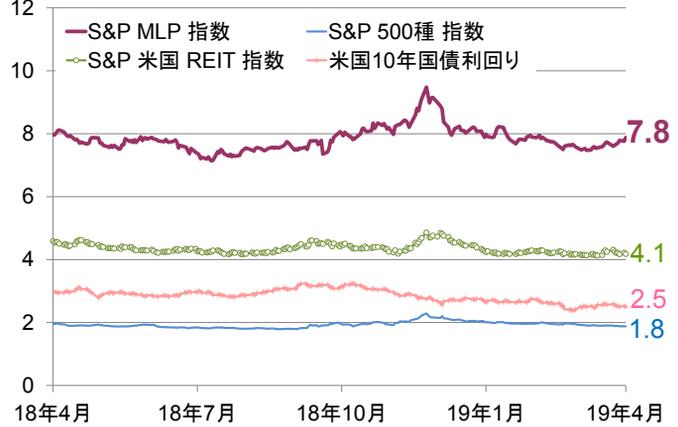
■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2018年4月末～2019年4月末)



■各資産の利回り

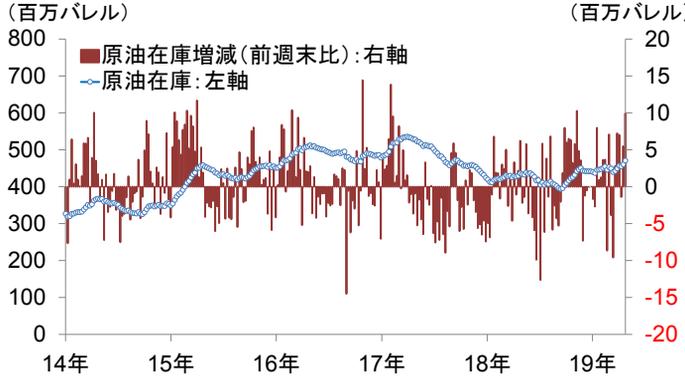
(%) (2018年4月末～2019年4月末)



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

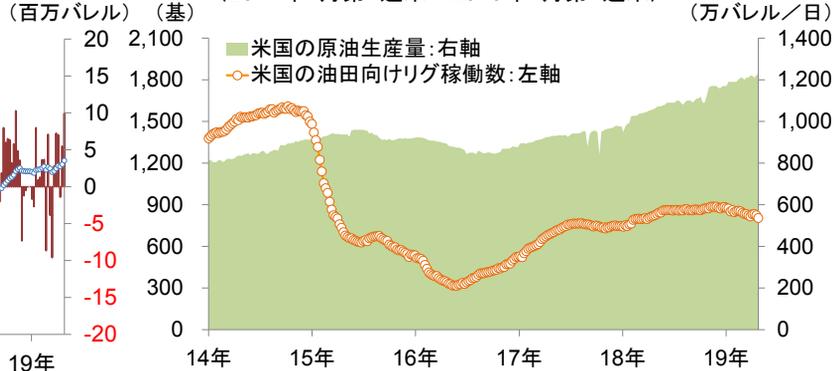
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年4月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2019年4月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2019年4月30日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。